# 画像処理(8) 人物画像処理一顔画像処理

### 顔画像処理の手順

顔の認識(基本) 応用

1. 顔領域の検出

デジカメ, 顔追跡, 顔姿勢

2. 顔の造作の検出

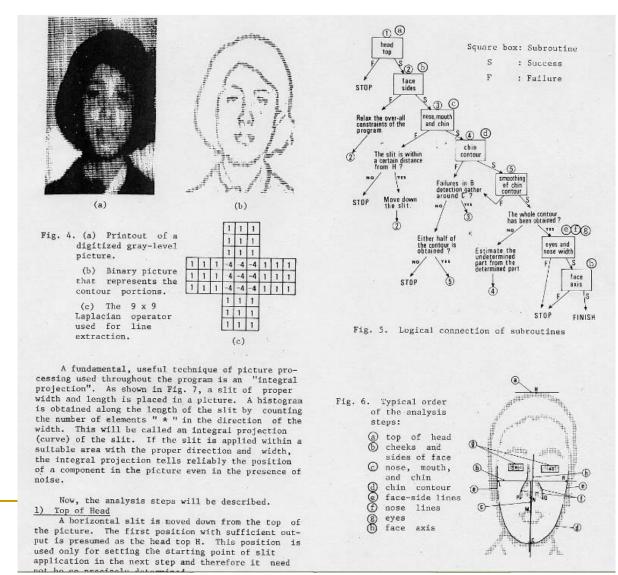
視線,表情

3. 顔の識別

セキュリティ、認証

#### 顔画像認識の歴史

- Computer analysis and classification of photographs of human faces
- T Sakai, M Nagao, T Kanade 1972
- 手順
  - 1. エッジ抽出
  - 2. 造作検出
  - 3. 造作配置・大きさ
  - 4. 識別ルール

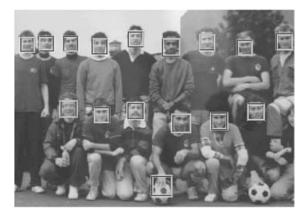


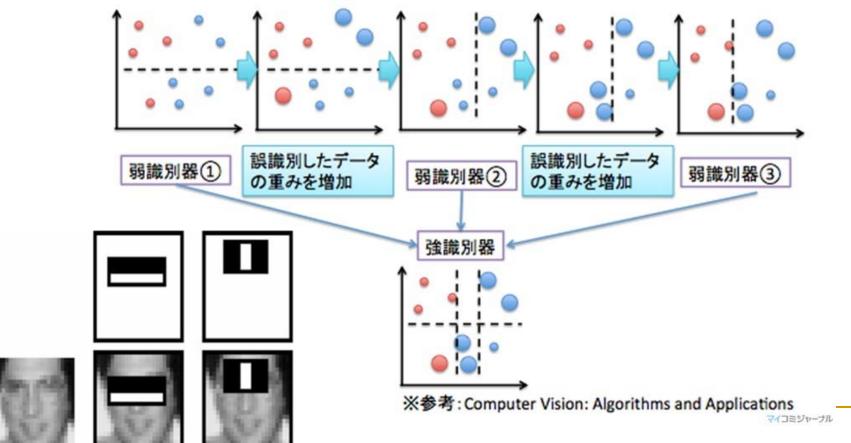
#### 顔処理の分類

- 顔特徴(造作)の抽出とマッチング
  - □ 目元, 口, 鼻腔, 顎間の距離と角度 (Kanade 1972)
  - □ グラフマッチング(Wiskott 1997)
  - □ 統計的形状モデル(Active Apprearance Model(AAM)法 (Cootesら2001)
- 顔全体処理(holistic法)
  - □ 主成分分析法(Eigenface法)
    - (Kirby & Sirovich 1990; Turk & Pentland 1991)
  - □ 識別関数法(Fisherface法)
  - □ Haar-like特徴+Adaboost法(Viola&Jones 2001)
  - □ 3次元形状データ

#### 1. 顔領域の検出

- Haar-like特徴+Adaboost識別器
  - Viola & Jones(2001)





### アルゴリズム

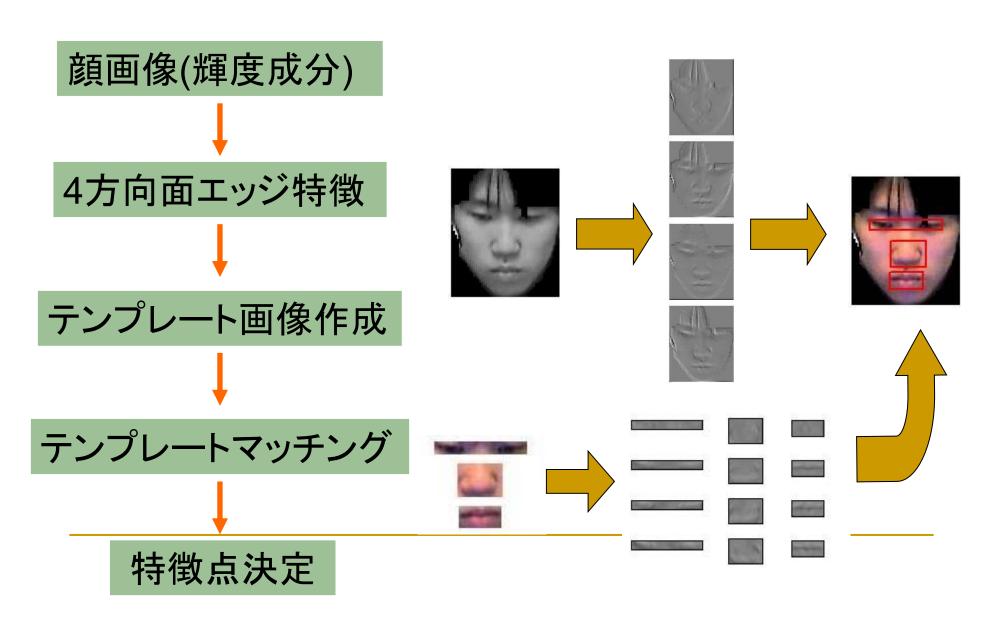
- 窓を全画面について移動して走査
  - □ 各ステップで窓内が顔かどうか判定
    - 判定方法
      - □ パターンマッチング法(SSDA法、相関係数など)
      - □ パターン認識法(Haar+Adaboost、HOG+SVM)
- ■走査終了
  - □顔候補領域を出力

# 2. 顔の造作(特徴)抽出

#### 顔の特徴を用いた処理

- 顔の各特徴の形状や配置による個人認証
- (例)目・鼻・口などの顔を構成する部品の形状や それらの配置の個人差に着目した人物認識

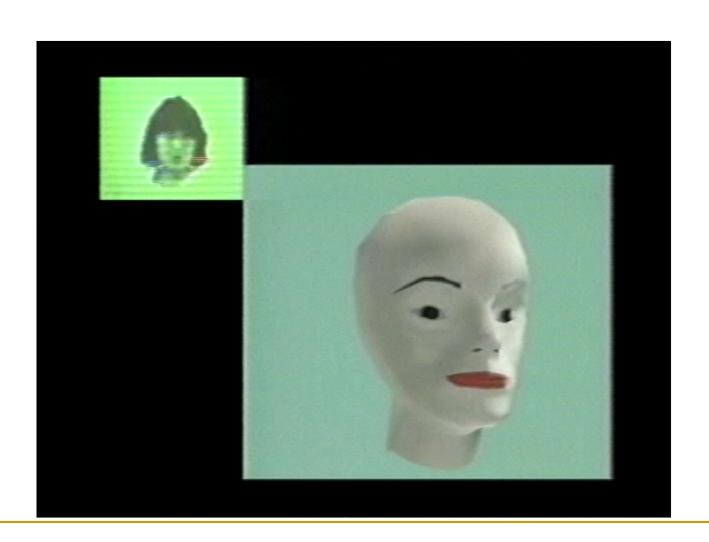
## 特徵点抽出法(例)

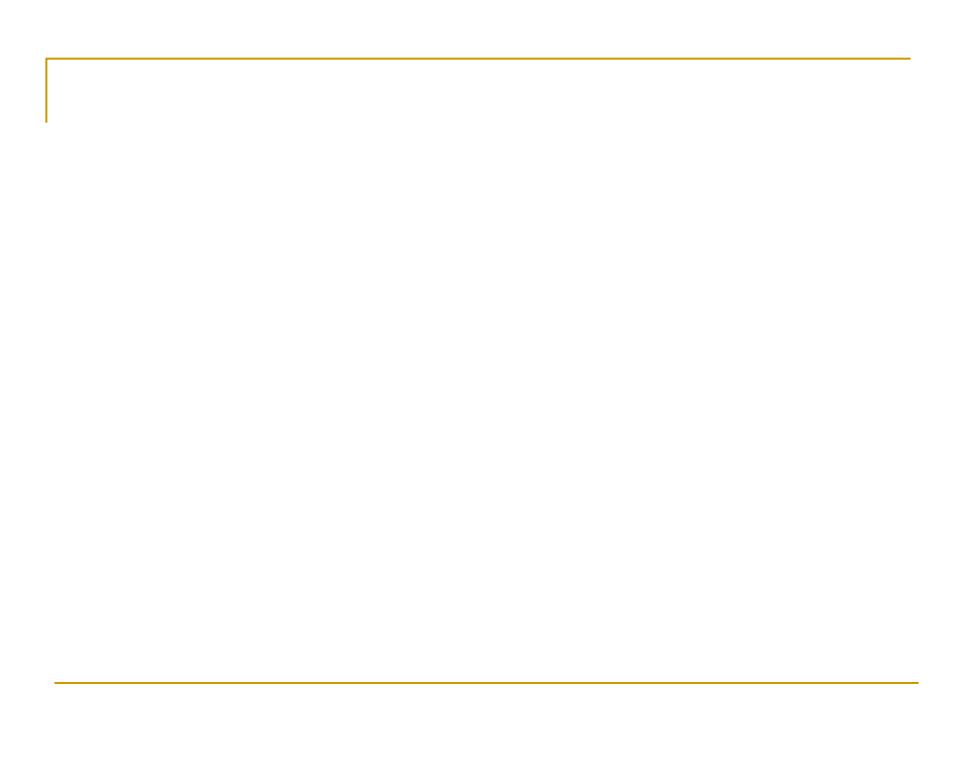


#### 顔の特徴を用いた処理の実用例

- 目領域を決定 網膜認証
- ■視線検出
- ■顔向き推定

## Headreader (NTT 1992)





# 3. 顔の識別

## 固有顔

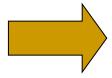
#### 固有値法による顔のマッチング

- 固有顔(eigen face)による個人識別
- 顔画像そのものをパターンとして 使用

パターン間のマッチングに基づく方法では 次元数が膨大になってしまう



主成分分析による次元圧縮



固有空間法

## UCSBにてMatthew Turk教授と



#### 固有空間法による顔のマッチング



 $\mathbf{X}_1$ 









 $\mathbf{X}_{N}$ 

平均画像x

$$\mathbf{X} = [\mathbf{x}_1 - \overline{\mathbf{x}} \ \mathbf{x}_2 - \overline{\mathbf{x}}, \cdot \cdot \cdot, \mathbf{x}_N - \overline{\mathbf{x}}] = [L_1, L_2, \cdot \cdot \cdot, L_N]$$

共分散行列 
$$Q = \frac{1}{N} XX^T$$

固有方程式  $\lambda_i e_i = Qe_i$ 

固有ベクトル: $\mathbf{e}_1,\mathbf{e}_2,...,\mathbf{e}_N$ 









固有值: $\lambda_1, \lambda_2, ..., \lambda_N$ 

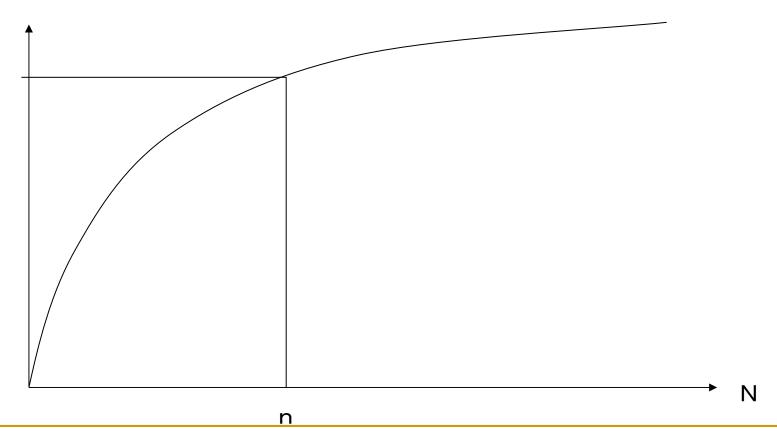
固有ベクトル

#### ■固有顔の計算手順

- □ N個の顔画像{x<sub>1</sub>, x<sub>2</sub>,..., x<sub>N</sub>}から平均画像x を求める.
- □ 各画像と平均画像の差分画像から, 顔画像空間**X**を構成する $X = [x_1 x_2 x_3, \cdot \cdot \cdot, x_N x] = [L_1, L_2, \cdot \cdot \cdot, L_N]$
- □ Xから共分散行列Qを計算する.
- □ Qの固有方程式を解き、固有ベクトルと固有値を求める. 固有ベクトル:  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \dots, \mathbf{e}_N$  固有値:  $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_N$
- □ 固有ベクトルのそれぞれが固有値に対応した固有顔 である.
- □ 固有値の高い, 固有顔がサンプル画像をよく表現している.

# 累積固有値(降順に固有値を並べたとき)

Σλ<sub>N</sub>



#### 固有空間法による顔のマッチング

固有方程式  $\lambda_i e_i = Qe_i$ 











固有ベクトル

■ 得られた固有ベクトルの組を部分空間への変換行列 Φ とし、入力画像xと学習画像L<sub>k</sub>を変換

$$\Phi = [\mathbf{e_1}, \mathbf{e_2}, ..., \mathbf{e_n}]$$
  
 $\mathbf{a} = \Phi^T \mathbf{x} = (a_1, a_2, ..., a_n)$ : 特徴ベクトル

■ 変換後の入力画像の特徴ベクトルax=Φ<sup>T</sup> (x-x'),(x' は平 均画像)と 変換後の各学習画像の特徴ベクトル $\mathbf{a}_{\mathsf{Lk}} = \mathbf{\Phi}^T \mathbf{L}_{\mathsf{k}}$ <u>(k=1, • • • , N)</u>との内積が最大となる k を選択

#### 固有空間法による顔の

固有方程式  $\lambda_i e_i = Qe_i$ 

固有ベクトルの全部を使わない でも、n個(n<N)の累積固有値 が高くなれば元の空間はかな り忠実に再現できる. n<N<<MxL

**x**の**Φ**による射影変換で.

画像x(MxL次元)は,n次

元の特徴ベクトル(n個の

固有ベクトルの線形和の

重み)で表現できる.

得られた固有ベクトルの組を部分空 とし、入力画像xと学習画像L<sub>k</sub>を変

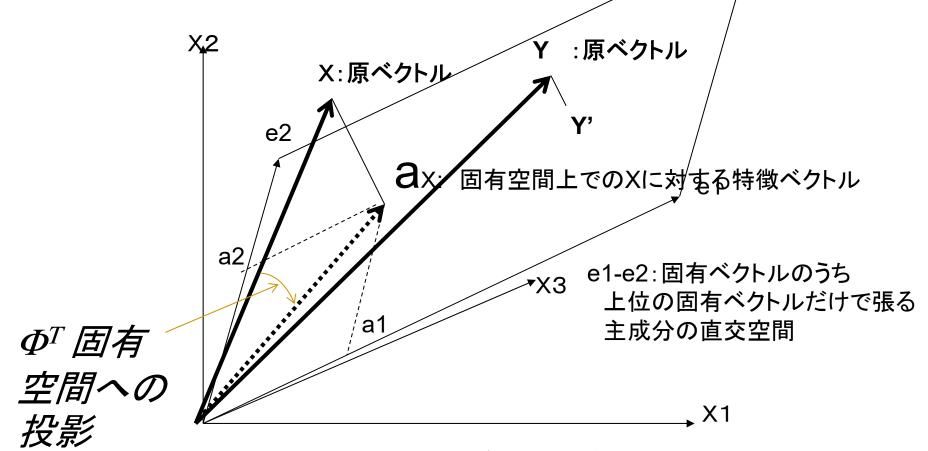
$$\Phi = [e_1, e_2, ..., e_n]$$

 $\mathbf{a} = \mathbf{\Phi}^T \mathbf{x} = (a_1, a_2, ..., a_n)$ :特徴ベクトル

変換後の入力画像xの特徴ベクトルa¸=*Ф<sup>T</sup> (x-x'),(x'は平* 均画像)と

変換後の各学習画像の特徴ベクトル $\mathbf{a}_{\mathsf{L}_{k}}$ = $\mathbf{\Phi}^{T} \mathbf{L}_{k}$ (k=1,・・・,N)との内積が最大となる k を選択

### 固有空間でのパターン特徴の表現



X1-X2-X3:元の画像の空間(直交空間:画素数分の次元)

{X<sub>N</sub>} {en}: 直交空間に対するある超平面(次元がNからnに圧縮)

## 固有顔の作成例













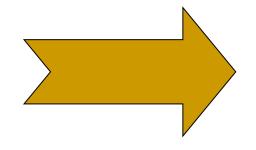








10枚の顔画像から 固有顔を作成

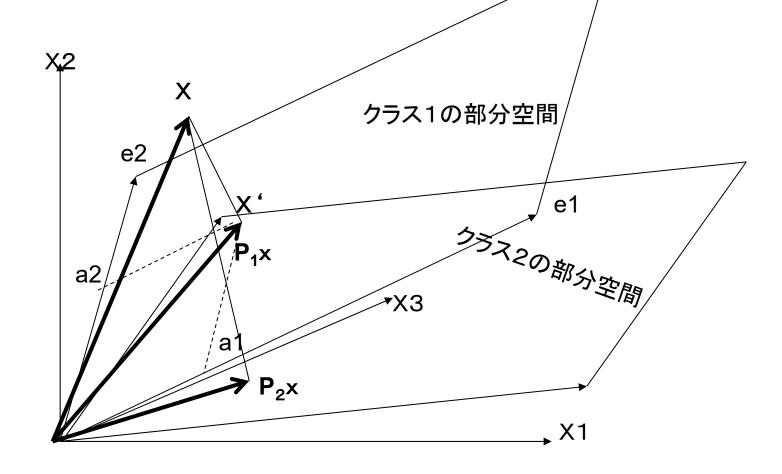




#### 部分空間法

 パターン分類をするときにクラスごとに部分空間 {Si}をはり、あるパターン×に対し部分空間Siに おける写像Px(P=ΦΦ<sup>T</sup>)のノルムがもっとも大き くなる部分空間のクラスωiに分類する方法

## 固有空間でのパターン特徴の表現



#### 固有値法(部分空間法)の実用例

- ■個人認証
- 顔方向認識
- 文字認識
- ■物体識別・姿勢推定

#### 特徴抽出法と固有値法の比較

#### 特徵抽出法

長所

- ・3次元位置取得等による精度保証
- ・比較的照明変動に 強い

#### 固有值法

- 画素数の影響小
- 処理時間

短所

- •オクルージョン
- 画素数が少ないときの特徴抽出
- ・照明変動, 部分変動の影響大
- 適切な学習パターンの取得の手間

#### 固有值法 vs 部分空間法

- 各クラスがそれぞれ異なる分布をしているときに 部分空間法が有効と言われている
- 例
  - □表情付きの個人顔